

# 生きる

大川小学校 津波裁判を闘った人たち

小さいのちが遺した  
伝えなくてはいけないこと。  
忘れてはいけないこと。

「なぜわが子が学校で最期を迎えたのか」10年間にわたり、  
その答えを探して撮影し続けてきた親たちの記録

2024

5.18 (土)

開場 13:30~  
上映 14:00~  
トークショー 16:10~

上映後 トークショー開催

菊川文化会館アエル 大ホール

1,000円 ■未成年・学生・障害者は無料  
チケット販売：アエル窓口ほか



寺田和弘 監督



只野英昭氏(原告遺族)



全国民必見のドキュメンタリーです

——尾木直樹 (教育評論家 / 法政大学名誉教授)

生きること。忘れてはならないこと。私達にできること。

震災から12年が経った今も強いメッセージが伝わってきます。

——竹下景子 (俳優)

自らの時代の不条理との関わり方を強く考えさせられる、  
そんな力を持った作品です。

——堤幸彦 (映画監督)



# 生きる

大川小学校 津波裁判を闘った人たち

## 「あの日、何があったのか」「事実と理由が知りたい」 親たちの強い思いが、10年にわたる唯一無二の記録となった

2011年3月11日に起こった東日本大震災で、宮城県石巻市の大川小学校は津波にのまれ、全校児童の7割に相当する74人の児童（うち4人は未だ行方不明）と10人の教職員が亡くなった。地震発生から津波到達までには約51分、ラジオや行政の防災無線で情報は学校側にも伝わりスクールバスも待機していた。にもかかわらず、学校で唯一多数の犠牲者を出した。この惨事を引き起こした事実・理由を知りたいという親たちの切なる願いに対し、行政の対応には誠意が感じられず、その説明に嘘や隠ぺいがあると感じた一部の親たちは真実を求め、石巻市と宮城県に対して国家賠償を求めて提訴に至る。彼らは震災直後から、そして裁判が始まってからも記録を撮り続け、のべ10年にわたる映像が貴重な記録として残ることになっていく——



### 【大川小学校 311当日の行動】

- 14時 46分 地震発生
- 50分ごろ 校庭に移動し、そのまま校庭に待機
- 52分 大津波警報 防災行政無線 (予想津波高6m)
- 15時 10分ごろ 大津波警報 防災行政無線 (2回目)
- 20分ごろ 消防車「高台避難」呼び掛け 大川小学校前を通過
- 28分ごろ 石巻市広報車 「追波湾の松林を津波が越えた」と 「高台避難」を呼び掛け、大川小学校前を通過
- 35分ごろ 「三角地帯」への移動を開始
- 37分ごろ 大川小に津波が到達

## 弁護団はたった2人の弁護士 親たちが“わが子の代理人”となり 裁判史上、画期的な判決に——

この裁判の代理人を務めたのは吉岡和弘、齋藤雅弘の両弁護士。  
わずか2人の弁護団で、原告となった親たちは「金がほしいのか」といわれのない誹謗中傷も浴びせられる中、事実上の代理人弁護士となって証拠集めに奔走する。彼らにとって裁判で最も辛かったのはわが子の命に値段をつけなければならないことだった。それを乗り越え5年にわたる裁判で「画期的」と言われた判決を導く。  
親たちが撮り続けた膨大な闘いの記録を寺田和弘監督が丁寧に構成・編集し、独自の追加撮影もあわせて、後世に残すべき作品として作り上げた。



<https://ikiru-okawafilm.com>



監督 | 寺田和弘 プロデューサー: 松本裕子 撮影: 藤田和也、山口正芳 音効: 宮本陽一 編集: 加藤裕也 MA: 高梨智史 協力: 大川小学校児童津波被災遺族原告団、吉岡和弘、齋藤雅弘  
主題歌: 「駆けて来てよ」(歌: 廣瀬奏) バリアフリー版制作: NPO メディア・アクセス・サポートセンター 助成: 文化庁文化芸術振興費補助金(映画創造活動支援事業) | 独立行政法人日本芸術文化振興会  
後援: 宮城県 製作: (株)パオネットワーク 宣伝美術: 追川恵子 配給: きろくびと 2022年 / 日本 / 16:9 / 124分 ©2022 PAO NETWORK INC. 2022年文部科学省選定作品 東京都推奨映画

【主催】ふじのくに防災士菊川市委員会 【共催】菊川市危機管理課 【協力】菊川文化会館アエル

【後援】菊川市、菊川市教育委員会、静岡県、静岡県教育委員会、掛川市、掛川市教育委員会、島田市、島田市教育委員会、御前崎市、御前崎市教育委員会、牧之原市、牧之原市教育委員会、牧之原市菊川市学校組合教育委員会、静岡県PTA連絡協議会 (公社)静岡県私学協会、(一社)静岡県保育連合会、(一社)静岡県私立幼稚園振興協会、静岡県社会福祉協議会、菊川市社会福祉協議会、静岡朝日テレビ、テレビ静岡、静岡第一テレビ、K-MIX、静岡新聞社・静岡放送、中日新聞東海本社、毎日新聞社静岡支局

【協賛】あづみ設計、(株)河原崎商事菊川、菊川青葉台医療クリニック、クラブ珈琲・アルモニー、島田掛川信用金庫、(株)すず保、設計工房杉山、タクミ建設(株)、(株)東遠保険コンサルタント、(株)ハウスペイント、浜松磐田信用金庫、(株)深津製作所、iLiC国際生活向上委員会、福田麻希子、尾白修一、後藤逸郎、鈴木小百合、上映応援してくださる皆さま、ほか

ふじのくに防災士菊川市委員会 【問合せ先】 bousaishikikugawa@gmail.com 090-7307-7127(杉山)

